

GS グローバル・ ビッグデータ 投資戦略

Aコース(為替ヘッジあり)
Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/株式

GS GLOBAL BIG DATA STRATEGY

Goldman
Sachs

Asset
Management

お申込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。「投資信託説明書(交付目論見書)」は販売会社までご請求ください。

■本資料はゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます。)が作成した販売用資料です。投資信託の取得の申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」をお渡しいたしますので、必ずその内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
■本ファンドは値動きのある有価証券等(外国証券には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は預金保険または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。■投資信託は、金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。■投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うことになります。

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

■ 設定・運用は



とうほう証券

商号等 とうほう証券株式会社
金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第36号
加入協会 日本証券業協会

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

商号等 ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第325号
加入協会 日本証券業協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

持続的な成長を遂げてきた世界経済。

だからこそ、長期的な資産形成の中核として、
評価されているグローバル株式。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントは、
長い年月をかけて開発してきた独自の運用モデルに、
ビッグデータ解析を導入することで、
あふれる情報の中から投資への示唆を見出し、
膨大な企業数を誇るグローバル株式市場から、
ポートフォリオを構築する。



グローバル株式



ビッグデータ/AI(人工知能)*



Goldman
Sachs

Asset
Management

ゴールドマン・サックス・
アセット・マネジメント

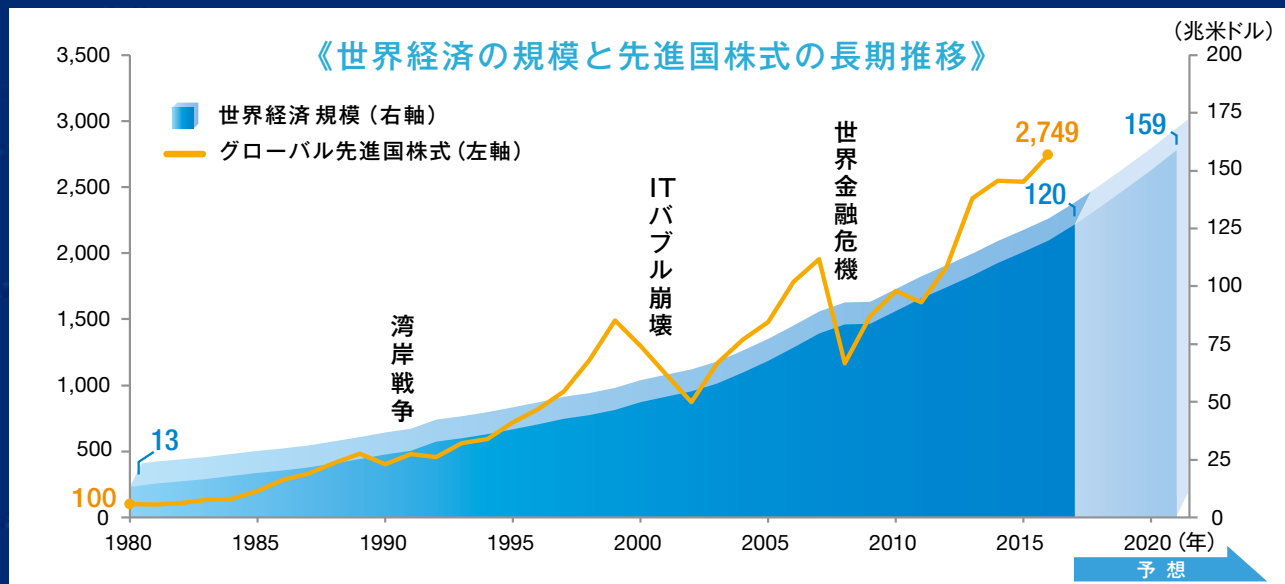
GS グローバル・ビッグデータ投資戦略

*詳細は6ページの「計量モデルにおけるビッグデータやAI(人工知能)の活用について」をご参照ください。

長期的な資産形成の力となる成長資産 グローバル先進国株式

▶ グローバル先進国株式へ投資し、世界経済の成長の果実を取りにいく

グローバル先進国株式市場は、これまで一時的な調整局面はあったものの、長期的に見ると世界経済の成長率を上回るペースで上昇を遂げてきました。



期間：世界経済 1980年～2021年 (2017年以降は予想)、グローバル先進国株式 1980年～2016年

出所：IMF (国際通貨基金) World Economic Outlook, April 2017、MSCIのデータを基にゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント作成
世界経済規模：購買力平価に基づき為替換算された名目GDP グローバル先進国株式：MSCIワールド・インデックス (クロスリターン/米ドル・ベース) グローバル先進国株式は1980年末を100として指数化

上記は過去のデータおよび一時点における予測値であり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。経済、市場等に関する予測は本資料作成時点のものであり、情報提供を目的とするものです。予測値の達成を保証するものではありません。

上記の「世界経済」には、新興国など本ファンドの投資対象以外の国も含まれておりますのでご注意ください。

▶ <ご参考>ビッグデータが日々生成される世界の株式市場

世界中には4万社以上の上場企業が存在し、企業を取り巻く大量のデータが日々生成されています。ビッグデータが飛躍的に拡大する現代においては、グローバル株式市場に投資を行う上で、ビッグデータの有用性が高まっています。また、AI (人工知能) の進化がビッグデータ解析を可能にしています。

《世界の上市企業数》



2016年末現在 出所：WFE (World Federation of Exchange (国際取引所連合))

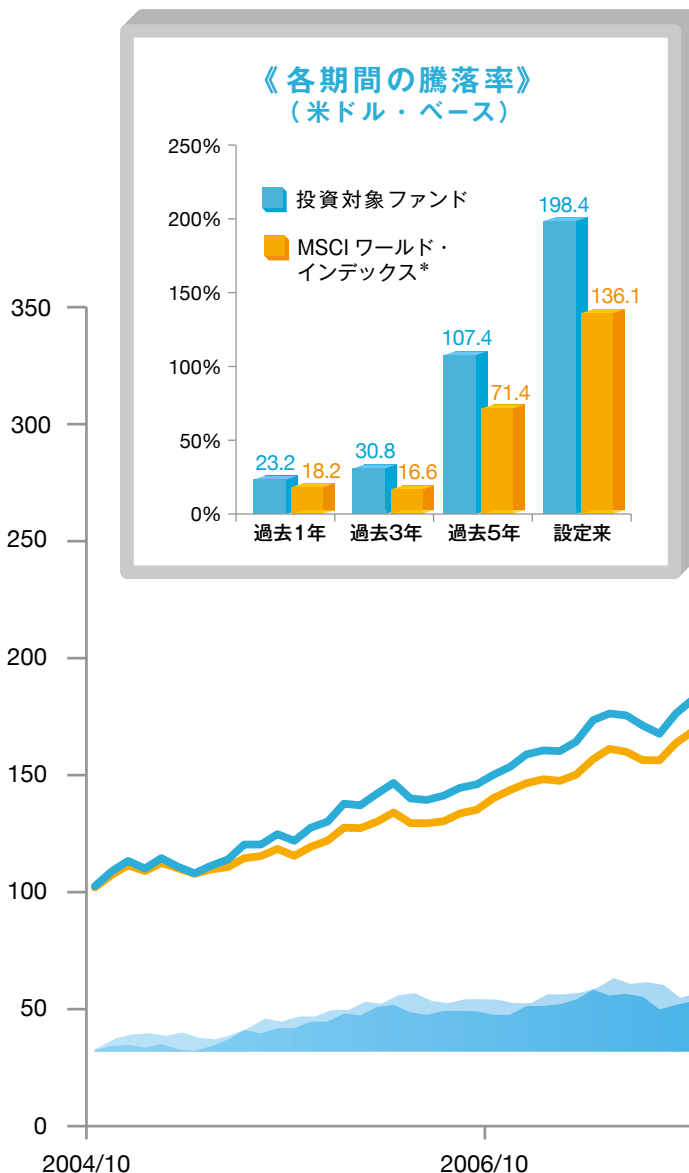
上記は過去のデータであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。

上記はあくまでも世界の株式市場についてご参考として示しているものです。「世界の上市企業」には新興国企業など本ファンドの投資対象以外の企業も含まれておりますのでご注意ください。

ビッグデータ/AIを用いた 運用実績の向

最先端の運用手法を 追い求める不断努力が、 運用実績を創りだす

2008年、ビッグデータ/AIを活用した評価基準を投資対象ファンドの運用モデルに導入開始。その後も日々、ビッグデータ/AIを活用した評価基準を研究・開発し、運用モデルを改良・更新しています。



AIの進化により、ヒトでは処理することの
なりました。

ビッグデータ

- リサーチ・レポート
- ウェブ・アクセス量
- ニュース記事
- 決算説明会 議事録
- アナリスト・レポート

上記は、例示をもって理解を深めていただくことを目的とした概念
上記の「ビッグデータ」は、あくまで一例に過ぎません。

《投資対象ファンドの運

- 累積超過リターン (右軸)
- 投資対象ファンド (左軸)
- MSCI ワールド・インデックス*

▶ 2008年 投資対象ファンドの運用モデルに
ビッグデータ/AIの導入開始

期間：(上グラフ)2017年6月末現在 出所：MSCI、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント (下グラフ)2004年10月14日(設定日)～
ため、左軸とは異なるスケールを用いて表示しています。*MSCIワールド・インデックス(ネットリターン)は、投資対象ファンドの参考指標です。
*投資対象ファンドとは、本ファンドの投資対象ファンドであるルクセンブルク籍外国投資証券「ゴールドマン・サックス・ファンズS.I.C.A.V.」-
上記は、投資対象ファンドの過去の運用実績(費用控除前)であり、本ファンドの運用実績ではありません。上記データにおいては、本ファンドの信託
データとは動きが異なります。為替ヘッジを行うコースでは、ヘッジ・コストがかかることにもご留意ください。上記は過去のデータであり、本ファンドの

約30年の歴史を誇る、運用

—ゴールドマン・サックス・アセット・マネ

Goldman Sachs Group

Goldman
Sachs

Asset
Management

ゴールドマン・サックス・グループの総合力と革新的な運用ソリューション

Goldman Sachs Asset Management

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

- 1988年の設立以来、世界有数の資産運用会社として、世界の機関投資家、政府系機関、個人投資家向けに約136兆円*の資産を受託
- 約150年の歴史を有するゴールドマン・サックス・グループのノウハウと世界を結ぶグローバル・ネットワークを活用し、お客様のニーズに対応したサービスを提供
- 世界約30拠点のグローバルな運用体制とリサーチ力

*1米ドル=112.00円にて円換算 2017年6月末現在

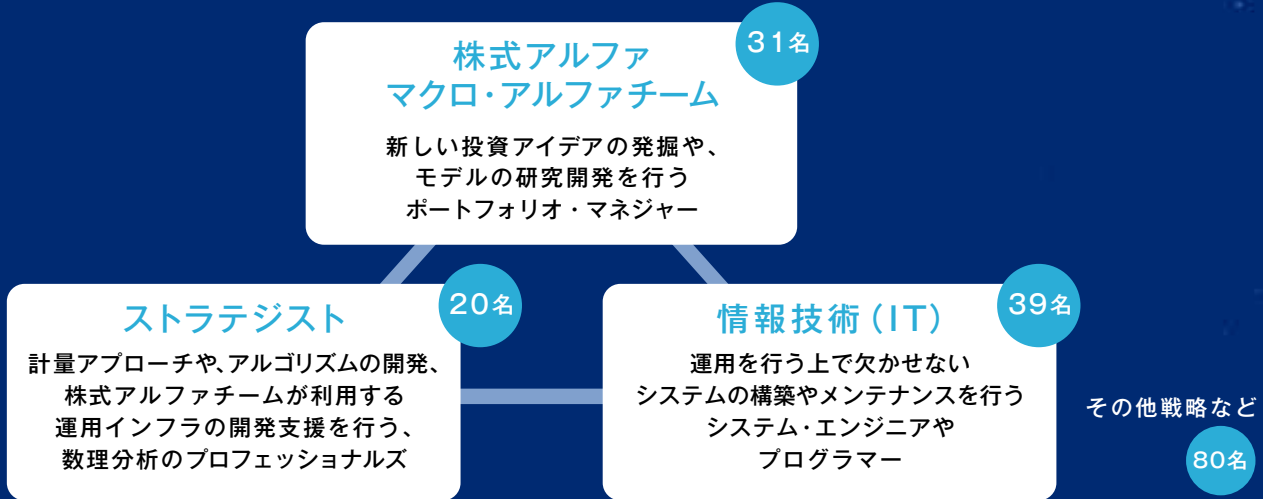
ゴールドマン・サックス ニューヨークオフィス



モデルに携わる専門集団

ジメント計量投資戦略グループ

充実した運用体制



歴史あるゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの計量株式戦略

- 1989年 ▶ 米国株式で計量株式戦略を開始
- 1995年 ▶ GTAA(グローバル・タクティカル・アセット・アロケーション)戦略を開始
- 1996年 ▶ 先進国株式の運用開始
- 2006年 ▶ 新興国株式の運用開始
- 2008年 ▶ ビッグデータ/AIを活用した評価基準を運用モデルに導入開始

新しい時代の幕開け

- 現在 ▶ 日々ビッグデータ/AIを活用した評価基準を研究・開発・改良し、モデルに随時導入

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント「計量投資戦略グループ」とは

15年以上
の平均投資経験を持つ

170名
のプロフェッショナルが

約12兆円
の資産を運用する組織
[1,109億米ドル、
1ドル=112.00円]

2017年6月末現在 上記は「計量投資戦略グループ」全体に関するデータです。

■計量モデルにおけるビッグデータやAI(人工知能)の活用について

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの計量モデルでは、投資対象銘柄について、数多くの多面的な評価基準に基づいて評価し、組入銘柄を決定しています。これらの評価基準の開発において、財務諸表などの伝統的なデータに加え、ニュース記事やウェブ・アクセス量などの非伝統的データも活用されます。ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントではこれらのデータ(ビッグデータを含みます。)の活用を競争力の源泉とみなしており、近年その利用割合を増やしているだけでなく、そのデータの種類や利用方法も進化しています。機械学習に代表されるAI技術は、一部の評価基準においてデータ分析プロセスで活用され、特にアナリスト・レポートやニュース記事等のテキストデータを読み込む評価基準において活用されます。最終的な評価基準の選定および組入銘柄の決定は、計量投資戦略グループのシニア・ポートフォリオ・マネジャーが監督しています。

飛躍的に拡大し、増え続けるビッグデータ

- 日々大量に生成されるビッグデータ。データ量が増え続けているだけでなく、データの種類も多様化しています。コンピューターが処理しやすい数値で表される構造化データの増加に加えて、文章、音声、画像といったコンピューターが処理しにくい非構造化データも飛躍的に拡大しています。

日々大量に生成されるビッグデータとは

構造化データ

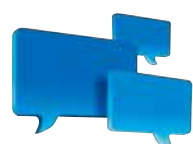
財務データ、株価、経済指標などコンピューターが処理しやすい数値で表されるデータ

非構造化データ

文章、音声、画像などのコンピューターが処理しにくいデータ



データは常に作り出されている



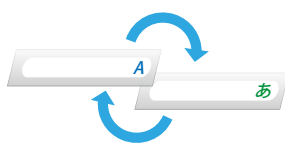
➤ Facebookに投稿される写真

22万枚



➤ ユーチューブに投稿される新しい動画

400時間



➤ グーグル翻訳

6,950万単語



➤ インスタグラムのいいね!の回数

243万回

世界では
わずか**1分間**で、
大量のデータが
作り出されて
いる。

出所：ドコモ社の記事(2016年6月28日現在)を基にゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント作成

上記は、例示をもって理解を深めていただくことを目的とした概念図です。上記のデータはあくまで一例に過ぎません。上記および下記はビッグデータやAIについて理解を深めるための一般的な情報提供を目的としており、本ファンドの運用を説明したものではありません。



ご参考

[多様な非構造化データの一例]

※当資料作成時点において、本ファンドでは、

《小売店舗の駐車場の衛星写真(米国)》



衛星写真



駐車中の車の数を定期的に計測することで、同小売店舗の売り上げの変化を推計。

《決算発表説明会》



決算説明会



ビッグデータ時代を加速させるAI

- 非構造化データを中心としたビッグデータの飛躍的な拡大により、その解析技術としてAIの重要性も高まっています。

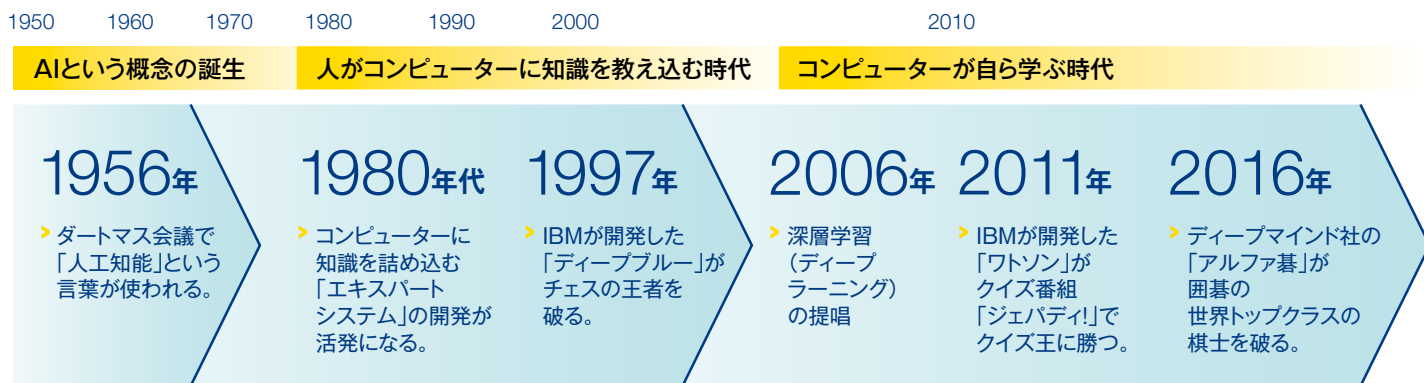
AI(人工知能)とは

- 人工的に、コンピューター上で人間と同様の知能を実現させようとする試みや、そのための一連の基礎的な技術のことをさします。
- 人工知能に関連する研究分野には、「機械学習*」や「深層学習*」といった基礎分野と、「画像認識」や「音声認識」、「自然言語処理」といった応用分野があります。

*機械学習とは、データから反復的に学習することで潜在するパターンを発見し、それを新たなデータに当てはめることで、判断や将来の予測を行う技術のことをさします。

深層学習とは、多層構造のニューラルネットワーク(人間の脳の神経回路の仕組みを模したモデル)を用いた機械学習の一種のことをさします。

AIの歴史

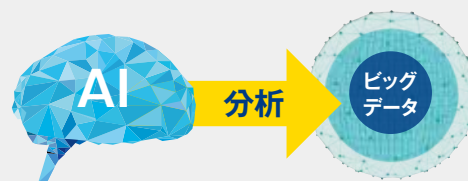


出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント調べ

高度なAI技術の応用例 — 自然言語処理 —

人間が日常的に使う自然言語をコンピューターに処理させる自然言語処理は、AIの機械学習分野において最も有望とされる技術の一つです。すでに電子メールのスパムフィルタや、オンライン翻訳ソフト、音声認識などさまざまな分野において活用されています。

投資の分野でも、企業に関連するニュースやアナリスト・レポートなどのテキストデータを、自然言語処理を用いて分析する手法が活用されはじめています。



上記はビッグデータやAIについて理解を深めるための一般的な情報提供を目的としており、本ファンドの運用を説明したものではありません。

下記のような非構造化データ解析は投資戦略に活用していません。あくまでも、非構造化データの一例として、ご参考に示しているものです。

などの音声データ》

音声データを解析することで、発言者の話し方の特徴や、変化などを捉え、強気/弱気度を推測する。



《一般に公開されているソーシャル・メディア》



FacebookやTwitter、LinkedIn、各種掲示板といったソーシャル・メディアから、最新のトレンドをリアルタイムに抽出。

上記の写真やデータはイメージです。

ビッグデータ/AIを活用した革新的な投資戦略

24時間、有効なビッグデータを収集・管理

ビッグデータ

AIを活用した
高い分析力

自然言語処理技術などの機械学習を活用した
独自の運用モデルを用い、ポートフォリオを構築

《本ファンドの運

●本ファンドの運用モデルでは、2008

当運用で活用している
ビッグデータの例

28万
決算

同量のデータを
人が分析した
場合の所要時間



1件60
[8時間労働]

2014年12月末現在（上記の数値は過去のレポート等を含みます。）
上記は一例であり、本ファンドではさまざまなビッグデータを活用しています。

分析 1 リサーチ・レポート

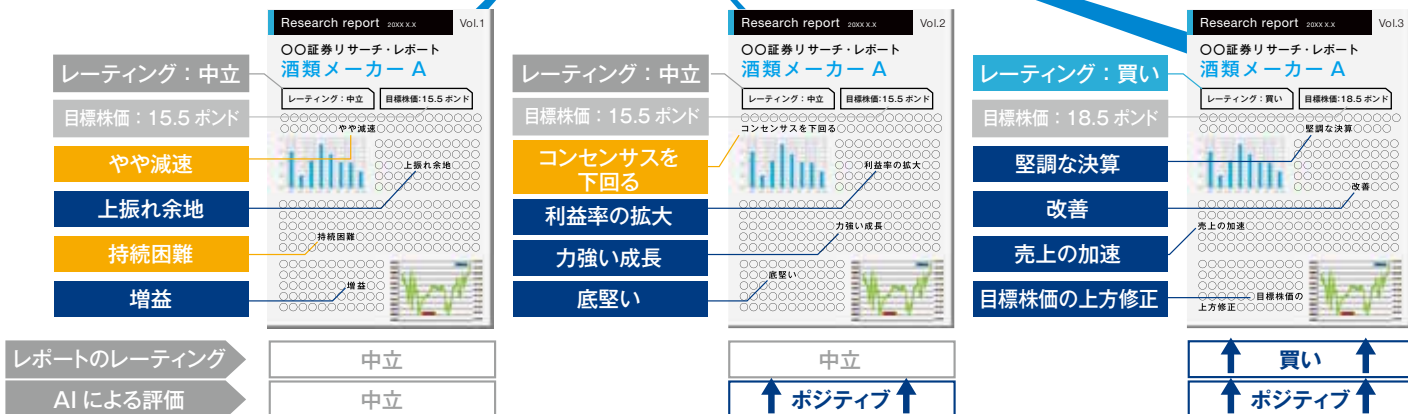
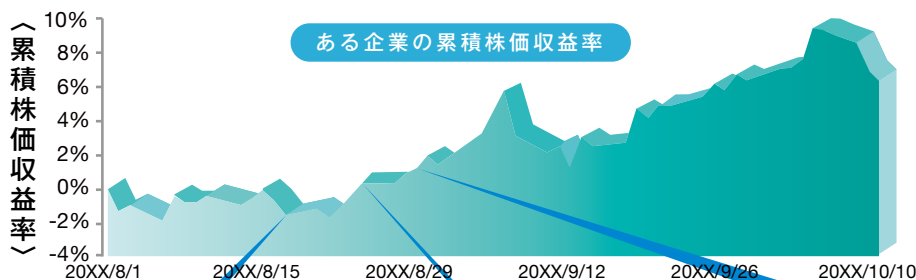
AIの自然言語処理技術を利用し、リサーチ・レポートの文章の変化から
アナリストの意図を読み取り、将来のレーティング変更を先取りします。

100万本以上の
レポートから

文章の意図を見抜く

自ら学習し構築したアルゴリズム（判定ルール）に基づき、レーティングには表れないアナリスト（筆者）の考えの微妙な変化
をキャッチ。

アナリストの意図を予測しいち早くポジティブ評価に転換。アナリストが買い推奨に転じる前に株価上昇の恩恵を享受。



出所：ブルームバーグ、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
上記は例示をもって理解を深めていただくことを目的としたものです。上記のような運用が実現できることを保証するものではありません。
※6ページの「計量モデルにおけるビッグデータやAI(人工知能)の活用について」をご参照ください。

を支えるポイント

用モデルに活用しているビッグデータの例》

年のビッグデータ/AIの導入以降、大量のデータを読み込み、学習することで分析の精度を高めてきました。

8千件の 発表議事録 	100万本以上の アナリスト・レポート 	2,600万件以上の ニュース記事 
分で読むと仮定 働した場合]	1本60分で読むと仮定 [8時間労働した場合]	1件5分で読むと仮定 [8時間労働した場合]
約 99 年	約 342 年	約 742 年

出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

分析2 ウェブ・アクセス分析

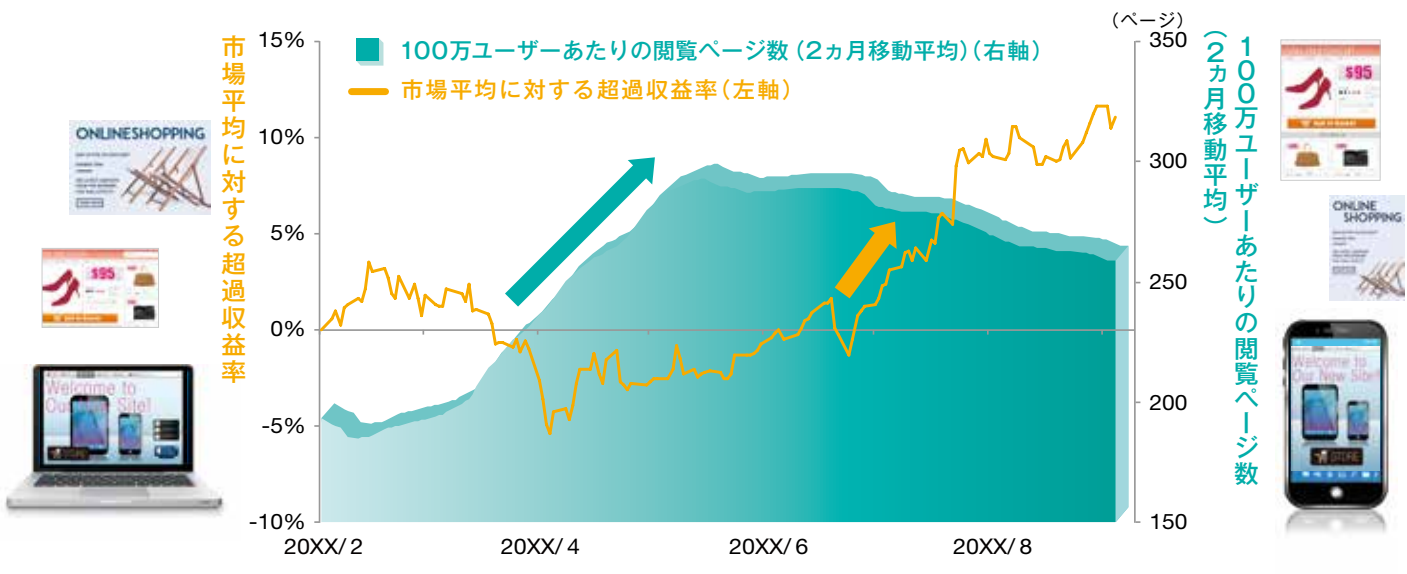
一般消費者向けビジネスを営む企業では、企業ウェブサイトへのアクセス動向のトレンドを分析することにより、収益性の予測に活用します。

ウェブへのアクセス動向で 収益トレンドも予想

小売業などの一般消費者向けに事業を営む企業では、企業ウェブサイトへの閲覧ページ数が増加すると、販売増加に伴い収益性が向上する傾向があります。

ウェブへのアクセス数の変化をいち早く捉えることで、その後の株価トレンドを予測することが可能になります。

小売業者 A



出所：アレクサ、ブルームバーグ、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
上記はあくまでも例示であって、すべての一般消費者向けにビジネスを営む企業にあてはまるものではありません。上記のような運用が実現できることを保証するものではありません。

ファンドの特色

POINT 01

日本を含む先進国の株式を主な投資対象とし、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行います。

POINT 02

ビッグデータやAI(人工知能)を活用したゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント独自開発の計量モデルを用い、多様な銘柄評価基準に基づいて幅広い銘柄に分散投資します。

POINT 03

為替ヘッジありのAコース、為替ヘッジなしのBコースの選択が可能です。

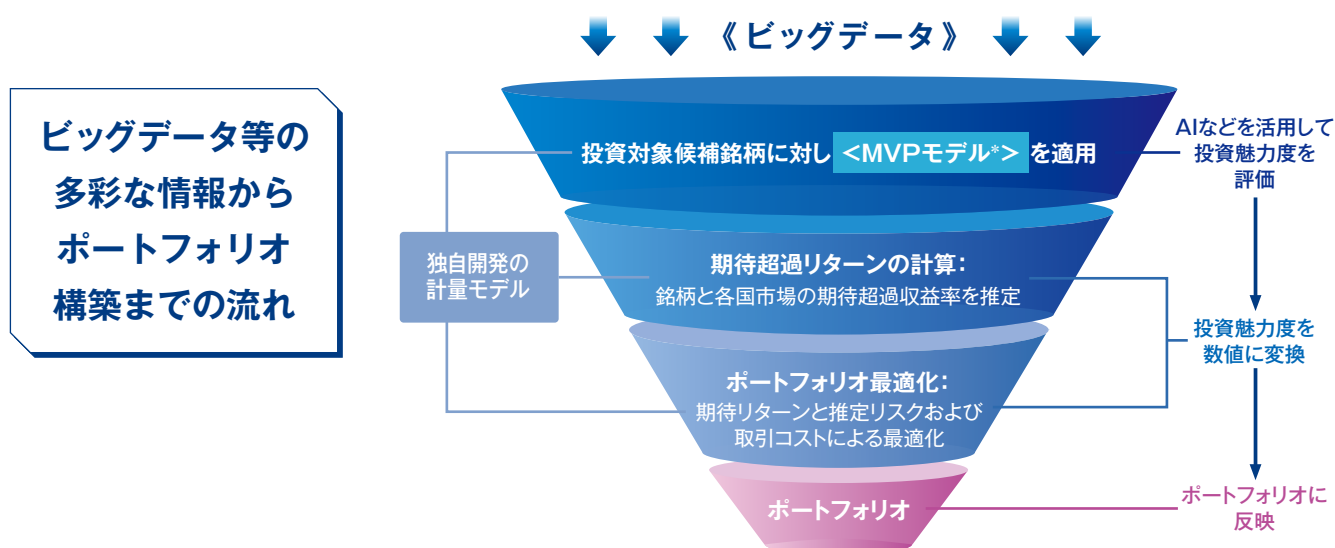
■本ファンドは、一般的にビッグデータ分析の対象となる企業開示情報や企業ニュースなどが豊富にあり、またそのクオリティの高い先進国企業を投資対象とします。

※運用においてビッグデータやAIなどを利用しますが、ビッグデータやAIなどのテクノロジー関連企業に特化して投資するものではありませんのでご注意ください。

※Aコースは、MSCIワールド・インデックス(円ヘッジ・ベース)、Bコースは、MSCIワールド・インデックス(円ベース)を運用上の参考指標とします。
 ※為替ヘッジにはヘッジ・コストがかかります。Aコースは、原則として、実質的な外貨建資産について対円で為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、委託会社の裁量により実質外貨建資産のすべてに対してヘッジが行われるとは限りません。また、純資産総額によっては一部の実質外貨建資産について為替ヘッジを行わず、為替ヘッジを行わない比率は純資産総額の減少に応じて大きくなります。Aコースへの投資であっても為替変動リスクが伴いますのでご注意ください。
 ※本ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。本ファンドの主要投資対象は、「ゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V.-ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ」です。
 ※市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

当戦略の投資プロセス ① 組入銘柄決定までの流れ

- 最新のビッグデータや市場/業績データ等に基づいて、日々、投資対象候補銘柄すべてにMVPモデル*を適用し、投資魅力度を自動的に評価します。
- 投資対象候補銘柄の①リターン予測、②リスク推定、③取引コスト推定を行い、ポートフォリオの最適化を図ります。

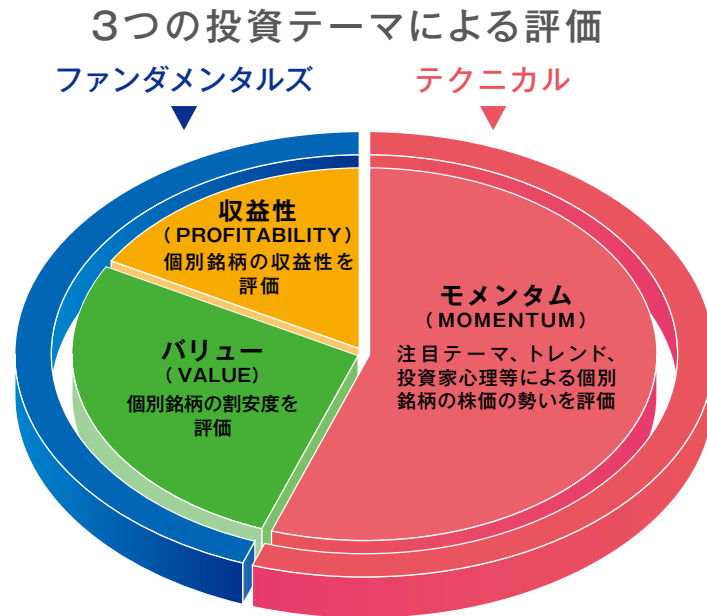


*MVPモデル：個別銘柄のリターンを予測するゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント独自開発のモデル
 上記は現行モデルに基づくものであり、計量モデルの改良・更新は継続的に行われています。上記の投資プロセスは変更される場合があります。上記がその目的を達成できる保証はありません。

当戦略の投資プロセス ② 個別銘柄の評価方法

- MVPモデルにおいて、さまざまな評価基準から構成されるモメンタム、バリュー、収益性の3つの投資テーマを通して、個別銘柄の投資魅力度を判定します。

< MVP モデル >



上記は概念図であり、実際の評価の割合とは異なることがあります。

- ビッグデータやAIなど最新のテクノロジーを用いた評価基準以外にも、財務データなどの伝統的な評価基準も含めて、総合的に評価します。

個別銘柄の投資魅力度算出のプロセス

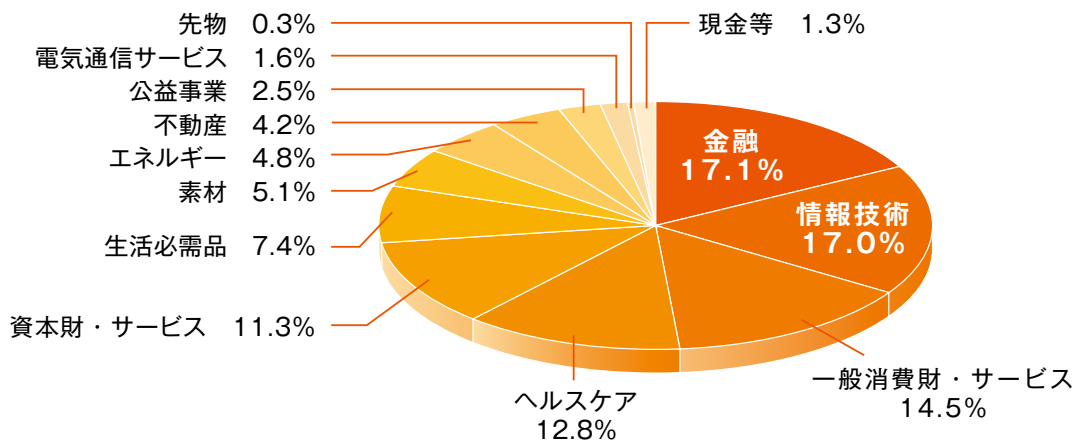
3つの投資テーマ (類似の評価基準をグループ化)	数百もの評価基準	投資対象候補に対してスコアリング
モメンタム (注目テーマ、トレンド、投資家心理等による株価の勢いを評価)	アナリストレポートの分析	企業 A 4, 企業 B -3, 企業 C 3, 企業 D 0, 企業 E -4, 企業 F 3, 企業 G -2, 企業 H 2 ...
	市場注目テーマの抽出	3, -1, 3, -1, -4, 4, -2, 3 ...
	企業ニュース	3, -1, 4, -1, -5, 3, -2, 5 ...
	特許情報	5, -3, 4, 0, -4, 2, -1, 4 ...
バリュー (個別銘柄の割安度を評価)	企業財務データ	4, 2, -5, 5, 4, -3, 4, 2 ...
	自社株買い	3, 4, -4, 4, 3, -3, 5, 3 ...
	ウェブ・アクセス量	-3, 4, -2, -2, 5, 0, -5, 3 ...
収益性 (個別銘柄の収益性を評価)	アクルーアル*総資産比率	-3, 3, -3, -3, 4, -1, -4, 2 ...
		2.00, 1.00, 0.00, 0.25, -0.13, 0.63, -0.88, 3.00 ...
-5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 低い ← 魅力度 → 高い		複数のスコアを加重平均して計算された総合的な魅力度

*アクルーアル(会計発生高)：会計上の利益と現金収支の差額
 上記は現行モデルに基づくものであり、計量モデルの改良・更新は継続的に行われています。上記の投資プロセスは変更される場合があります。上記がその目的を達成できる保証はありません。

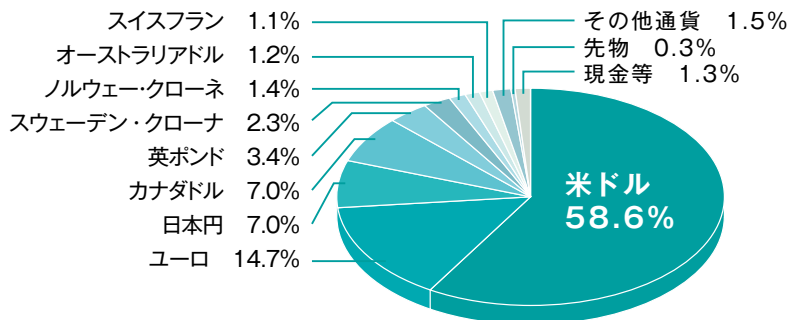
投資対象ファンド*のポートフォリオ概要

2017年6月末現在

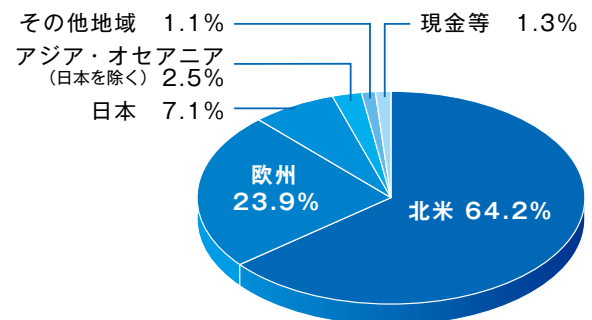
《セクター別構成比率》



《通貨別構成比率》



《地域別構成比率》



《投資対象ファンド*の組入上位10銘柄 (合計287銘柄)》

MVPモデルに基づき、評価されたポイントを示しています。
M:モメンタム V:バリュー P:収益性

順位	銘柄	国	セクター	構成比	M	V	P
1	サンタンデル銀行	スペイン	金融	1.4%		●	
2	バイエル	ドイツ	ヘルスケア	1.1%		●	
3	アムジェン	米国	ヘルスケア	1.1%		●	●
4	セルジーン	米国	ヘルスケア	1.0%	●	●	●
5	アマゾン・ドット・コム	米国	一般消費財・サービス	1.0%	●		
6	CVSヘルス	米国	生活必需品	0.9%	●		
7	ウォルグリーン・ブーツ・アライアンス	米国	生活必需品	0.9%	●		
8	ルフトハンザグループ	ドイツ	資本財・サービス	0.9%	●	●	
9	DNB	ノルウェー	金融	0.9%	●		
10	アドビシステムズ	米国	情報技術	0.9%			●

2017年6月末現在 出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

*投資対象ファンドとは、本ファンドの投資対象ファンドであるルクセンブルク籍外国投資証券「ゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V.-ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ」をさします。

上記は過去のデータであり、本ファンドの将来の運用成果を示唆または保証するものではありません。上記の比率は小数点第一位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

上記はあくまでも過去の一時点における組入銘柄であり、将来にわたって引き続き当該銘柄を保有、または保有しないことを保証するものではありません。また、個別銘柄の売却、購入または継続保有等を推奨するものではありません。

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。信託財産に生じた損益はすべてご投資家の皆さまに帰属します。

▶ 主な変動要因

株式投資リスク（価格変動リスク・信用リスク）

本ファンドは、日本を含む先進国の株式を主要な投資対象としますので、本ファンドへの投資には、株式投資にかかる価格変動等のさまざまなリスクが伴うことになります。本ファンドの基準価額は、株式等の組入る有価証券の値動きにより大きく変動することがあり、元金が保証されているものではありません。特に世界の株式市場の下落局面では本ファンドの基準価額は大きく下落する可能性が高いと考えられます。一般には株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況に応じて変動します。したがって、本ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があります。現時点において価格が上昇傾向であっても、その傾向が今後も継続する保証はありません。また、発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。

株式の流動性リスク

本ファンドの投資対象には、流動性の低い株式も含まれています。このような株式への投資は、ボラティリティ（価格変動率）が比較的高く、また流動性の高い株式に比べ、市況によっては大幅な安値での売却を余儀なくされる可能性があることから、大きなリスクを伴います。

為替変動リスク

本ファンドは、日本を含む先進国の株式を投資対象とする外貨建ての投資信託証券を主要な投資対象としますので、本ファンドへの投資には為替変動リスクが伴います。とりわけ、対円で為替ヘッジを行わないBコースでは為替変動の影響を直接的に受け、円高局面ではその資産価値を大きく減少させる可能性があります。Aコースは、対円で為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジを行うにあたりヘッジコストがかかります（ヘッジコストは、為替ヘッジを行う通貨の金利と円の金利の差が目安となり、円の金利の方が低い場合、この金利差分収益が低下します。）。為替ヘッジは実質的な外貨建資産に対して行われますが、委託会社の裁量により実質外貨建資産のすべてに対してヘッジを行うとは限らず、また、Aコースの純資産総額によっては一部の実質外貨建資産について為替ヘッジを行わないため、Aコースへの投資であっても為替変動リスクが伴います。

▶ 留意点

計量運用に関する留意点

本ファンドでは、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの計量モデル群を用いた複数の戦略が実行されます。ビッグデータやAIの利用を含む計量モデルに従う運用がその目的を達成できる保証はなく、ボトムアップ手法によるアクティブ運用やパッシブ運用など他の運用手法に対して優位性を保証するものでもありません。なお、計量モデルにはビッグデータやAI以外の定量要素も利用されます。計量モデルの改良・更新は継続的に行われており、ビッグデータやAIの利用方法については将来変更されることがあります。計量モデルは仮説に基づき構成されたものであり、モデルにより選択された銘柄や市場動向は必ずしもこの仮説が想定する動きを示さない場合があります。また、ある時点でモデルが有効であったとしても、市場環境の変化等により、その有効性が持続しない可能性もあります。このような場合には、本ファンドの基準価額に影響を及ぼし、本ファンドのパフォーマンスが参考指標を下回ったり、投資元金が割り込む可能性があります。

お申込みメモ

購入単位	販売会社によって異なります。
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が指定する日までにお支払いください。
換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込日から起算して6営業日目から、お申込みの販売会社を通じてお支払いいたします。
購入・換金 申込不可日	英国証券取引所、ニューヨーク証券取引所もしくはルクセンブルク証券取引所の休業日またはロンドン、ニューヨークもしくはルクセンブルクの銀行の休業日および12月24日(以下「ファンド休業日」といいます。)
申込締切時間	「ファンド休業日」を除く毎営業日の原則として午後3時まで
信託期間	2027年6月25日まで(設定日：2017年2月24日)
繰上償還	各ファンドそれぞれについて純資産総額が30億円を下回る事となった場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年6月25日(ただし、休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回(6月)の決算時に原則として収益の分配を行います。 ※運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。
スイッチング	販売会社によっては、各ファンド間でスイッチングが可能です。 ※スイッチングの際には換金時と同様に換金されるファンドに対して税金をご負担いただきます。 くわしくは販売会社までお問い合わせください。
課税関係 (個人の場合)	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は少額投資非課税制度(NISA)の適用対象です。配当控除の適用はありません。 原則、分配時の普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の譲渡益が課税の対象となります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入申込日の翌営業日の基準価額に、 3.24%(税抜3%) を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。
換金時	換金手数料	ありません。
	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対して 年率1.323%(税抜1.225%) ※運用管理費用は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。
	信託事務の 諸費用	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、印刷費用など信託事務の諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.1%相当額を上限として定率で日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われるほか、組入れ投資信託証券の信託事務の諸費用が各投資信託証券より支払われます。
随時	その他の費用・ 手数料	有価証券売買時の売買委託手数料や資産を外国で保管する場合の費用等 上記その他の費用・手数料(組入れ投資信託証券において発生したものを含みます。)はファンドより実費として間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記の手数料等の合計額については、ご投資家の皆さまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社その他関係法人の概要について

- 委託会社：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(信託財産の運用の指図等を行います)
- 受託銀行：みずほ信託銀行株式会社(信託財産の保管・管理等を行います)
- 販売会社(本ファンドの販売業務等を行います)
販売会社については、下記の照会先までお問い合わせください。
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
電話：03-6437-6000(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)
ホームページ・アドレス：www.gsam.co.jp